

親子遊びVTR 評価用紙

名前：〇〇 △△ (2:6) 〇年△月×日記入

1：できていない 2：あまりできていない 3：ふつう 4：できている 5：よくできている

項目	指 導 内 容	観 察 ・ 結 果				
場面設定	遊びの内容：ボタンはめ・製作	使用玩具：①ボタンはめ②かえる製作③ちょうちょの製作				
親の遊び方項目	①やりとりの継続・発展	1	2	3	4	5
	②.子供の言語的・非言語的（ジェスチャー）表出への気づき	1	2	3	4	5
	③.視線の共有（アイコンタクト）	1	2	3	4	5
	④親子での物の共有	1	2	3	4	5
	⑤活動の主導権の取り方	1	2	3	4	5
	⑥子供の発声や動きの促進	1	2	3	4	5
	⑦問題が生じた時の対応	1	2	3	4	5
親の話しかけ方項目	1.声の聴きやすさ					
	①抑揚	1	2	3	4	5
	②声の大きさ	1	2	3	4	5
	③速さ（自然さ）	1	2	3	4	5
	2.発話を聴かせる					
	④子供の発話の繰り返し	1	2	3	4	5
	⑤子供のことばの修正・拡大	1	2	3	4	5
	⑥特性の言語化	1	2	3	4	5
	⑦要求・行動・感情の言語化	1	2	3	4	5
	3.コミュニケーションの促進					
	⑧質問のやりとり	1	2	3	4	5
	⑨受容・賛同・共感	1	2	3	4	5
	⑩子供を褒める	1	2	3	4	5
	⑪子供の注意を引く	1	2	3	4	5
	4.新しい知識・語彙の促進					
	⑫子供への教示	1	2	3	4	5
	⑬さまざまな語彙の使用	1	2	3	4	5
子供の様子	①発声（声質や大きさ）	1	2	3	4	5
	②発話量	1	2	3	4	5
	③コミュニケーション	1	2	3	4	5
	興味のある物では落ち着いて取り組んでいるが、興味がなくなると殆ど M の話を聴けていない。要求時に適当な発声になりやすい。アイコンタクトは良く M の様子を確認することあり。					
備考						

全体的なことについて

＊前回と比較すると親子共によく取り組めていたと思います。前回アドバイスした3点（1.場面設定、2.子どもの表出への気付き・やりとりの継続 vs 主導権の取り方・子どもの興味を引く、3.言葉かけについて）については比較的改善されており、次の活動への切り替えなどもよくできているので、短い時間の中で、密度の濃い関わりができていたように感じました。今回は、3 場面の親子ビデオに分けてありましたので、各場面について、活動や話しかけについて、良かった点と簡単なアドバイスをまとめておきます。ですので、前回と書き方が少し異なると思います。ここで言う、アドバイスは、「あえてもう一工夫できるのであれば」、という意味で今行っていることが、決して間違っている訳ではありません。次回、同じようなことになった時に試してみてくださいということです。

<200X.0.X 親子遊び>

1. ボタンはめ

【良かった点】

- ◆ ○ちゃんの「パッ（ママ）」「お（自分の名前）」「同じ」とマッチングをする場面などお母さんが○ちゃんの表出に気付いてあげていたと思います（少し「自分の名前」というのも分かってきて表出し始めたのかなという印象を受けましたが、実際のところはどうでしょう？）。この場面では名前を意識させて再度聞かせるという点では問題ないですが、場面から想定するに、おそらく○ちゃんの主張が「（これは）ママの」「（これは）りおの」なので、普段の生活の中では所有格の助詞はさりげなく聞かせていっても良いかと思います。「これは、リオの？ママの？」など。
- ◆ ボタンを数えている時に、「ひとつ」と言ったあとに「1（イチ）」と聞かせているのは良いですね。今の○ちゃんでは「ひとつ」では分からないと思われるけど、きちんとその言葉を聞かせてから、「1」と知っている言葉を再度聞かせてあげているのは良いと思います。
- ◆ ○ちゃんが「アウ」など少し適当に声を出したときに「とおして」などの要求語もよく求められていました。
- ◆ 「どっちにする？」など子どもに選択させる質問も投げかけており、親子のやりとりが見られました。

【アドバイス】

- ◆ おそらく、この活動では、お母さんが「形名」と「色名」を意識しているのだとは思いますが、さらに言葉を○ちゃんのレベルに合わせて広げるにはどうしたら良いか考えてみましょう。「まる」という言葉自体は○ちゃんがもう自発で分かっているので、必要以上に表出を誘う必要はないかと思います。そのかわり、「まる」からどう発展させていけるかを考えてみましょう。例えば、青と黄色の「まる」をくっつける前に「まーる（いの）が半分になってるね」「はんぶーん」とここではあえて「まる」から広げて他の言葉を意識的に聞かせることもできます。また、せっかくボタンを「1, 2」と数えてボタンに興味を持たせようとしているので、ママやパパ、○ちゃんの洋服にボタンがついていたら、「ボタンあるかな」「ボタンあった」「ボタンないね」と意識して「ボタン」という言葉を聞かせることもできます。
- ◆ 青いまるを見て自発で○ちゃんが「マール」らしく言った後に、ママが「これは？」と黄色

いまを見せると「イー（小さい）」と〇ちゃんは表出したと思います。全く適当に言っているとも考えられますが、「黄色」の「キー」の部分と「小さい」の「チー」の部分で聴こえるにも似ていることから混同をしているとも考えられ、仮にその後お母さんが「黄色」と聞かせてもそれが色名として届いているかがあやしくなってしまいます。さりげなく、お母さんが「黄色だね」と色名をここで聞かせなおしているのは、本当はとても良いことなのですが、「今は色（形）のことをママは話しているんだよ」という手がかり（マッチングなど）が今の〇ちゃんには必要かもしれません…。お母さんがさりげなく訂正しているのは、とてもいいことなんですけどね。

2. かえるの製作

＊この活動はとてもよく遊べていており、やりとりも自然で、話しかけも上手にできているので、これといったアドバイスはありません。身体部位名というターゲットもはっきりしており、今回の3つの遊びの中では特によく遊べていたと思いますので、上記の評価表もこれに限定するとほぼ「4」が並んだと思います。

【良かった点】

- ◆ ピンクと青を選ばせる時に、最後に「♪どちらにしようかな♪」のフレーズを取り入れて子どもが選びやすい状況を作っていたのは良かったです。
- ◆ 「かえるとび」で〇ちゃんが席を離れたときに両親ともに、（かえると関係していることなので）無理に連れ戻さず見守って上手に席に誘導していました。
→細かいことになりますが、こういう時にも戻ってきたときに今意識している「おかえり」と挨拶の言葉をママが言ってあげることもできます。
- ◆ ピンクと青の筒で遊ぶ→かえるの製作→かえるを筒に貼る→クレヨンを数えながらしまう→お片づけという流れがとてもいいですね。これで、あの筒を見るたびに「かえるを作った」という製作と一連のことが経験として〇ちゃんの頭の中に残ります。
- ◆ 最後にお母さんが「さる」をやるかやらないか確認していたことはいいことです。

【アドバイス】

- ◆ かえるの口を貼る前に「リオの口はどれ？」と聞いていますが、そのまま〇ちゃんが無視してしまいます。おそらく、お母さんの頭にはずっとそのことがあって、一度「口」では流してしまったことを後で「目」を扱うときにきちんと同じことを扱っているのは、立派です！もし、これを「口」の場面で扱うとしたら、おそらく貼った後に、袋に書いてある見本を見ながら「これとおんなじね」と言っているときに、再度扱うことができるかもしれません。また、扱い方としては「ママの口は～（と顔の付近で指をどこに指そうか迷っている様子などを見せながら）…リオのは？」と聞いてみることも可能です。でも、流れ的にはお母さんのように「目」の場面で再チャレンジをする方が活動の流れとしては良いと思うので、問題はまったくありません。

3. チョウチョコの製作

【良かった点】

*ここの活動では、お母さんが上手に○ちゃんの表出を促している場面が多く見られます。

- ◆ まず、お片づけを○ちゃん自身にさせているのはいいですね。次の活動にうつりやすくなります。
- ◆ 要求語を求めるタイミングが3活動全て前回よりもいいと思います。
- ◆ はさみの活動の前に「おしまいなの？」と確認をした上で、クレヨンを片付けているのもいいですね。欲を言えば、○ちゃんに一度はさみを置かせて、○ちゃん自身にクレヨンを片付けさせても良いかも。
- ◆ お勉強ではないので、椅子もこだわらずに片付けているのは良いと思います。きちんと「座らないの？」と確認をしてから片付けているのも良いと思います。
- ◆ ジェスチャーの省略もよくできていました。「切りたい人？」で○ちゃんが手を挙げなかった後に「ハーイは？」と言葉だけで聞いても○ちゃんは手を挙げることができましたね。ここでお母さんが手を挙げるジェスチャーをしていないことが大事です。
- ◆ 切り終わった後に○ちゃんが自分でパパに向かって「オ、パッ（りお）、オー（おりこう）」というもパパが上手に拾ってあげています。
- ◆ ○ちゃんが「アウ」と適当に声を出した後に、お母さんが「あけてー」と言葉を再度誘いなおしているのもよくできています。

【アドバイス】

- ◆ 3分55～56秒あたりで、ママが下を向いているときに○ちゃんが、これはおそらく「ママ」と呼んで助けを求めているのだと思うのですが、（これだけしっかりママと呼べているのであれば立派ですね）お母さん自身はこれを「ママ」と呼んでいると思いますか？仮に今回は確実にそうではなかったとしても、今後「ママ」と助けを求めるような場面は出てくると思います。その時にはまず、「なーに？」と呼ばれた理由を聞き返す形を取ってください。それで○ちゃんが何も言わなければ「むいてー、なの？」とここで要求語を求めていって欲しいと思います。まだ、○ちゃんの発話が曖昧なので、気付いてあげることも難しいと思いますが、呼んだときには、何かを言うという習慣づけにもなります。りお：「ママ」→ママ：「なーに？」→りお：「ちょうだい」→ママ：「はい、どうぞ」これが会話や質問のやりとりに発展していきます。少なくとも、今回はお母さんが「むいてほしい」という○ちゃんの要求に気付いていることは立派です！
- ◆ この活動中あるいは活動後に取り入れられること：お花関連の歌を歌ってみる・（家の中があれば）お花を探して見るなど。
- ◆ 色塗りの時に、もし色名を意識させたいのであれば、5色前後に限定しておくという方法もあります。「赤」「青」「黄色」「白」「緑」（○ちゃんの好きな「ピンク」）など。その中から「赤にする？青にする？」など2択にさせ色を意識的に聞かせるということもできます。今回は「かえる製作」でクレヨンをしまった後なので、あのような形で行った方が本人の満足度も高く良いでしょう。